

琉球大学学術リポジトリ

[資料] 琉球パイン産業合理化計画

メタデータ	言語: 出版者: 沖縄農業研究会 公開日: 2009-01-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 琉球政府 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002015105

琉球パイン産業合理化計画 (1962年3月 琉球政府)

1. 基本方針

琉球に於けるパイン産業は、本土政府の特恵措置によって1953年以降急速に発展し、1960年には罐詰で60余万ケースが輸出され、糖業と共に二大基幹産業となった。特恵措置の内容は、次のとおりである。

- 1) 琉球以外の外国罐詰の輸入制限(外貨割当、発券時期及輸入国指定)
- 2) 関税25%の免除
- 3) 特定物資輸入臨時措置法による差益金の免除(30%)

然るに近年に至って貿易立国の国是とする本土は、ガット加盟国である事はもとより、国際貿易の原理に立脚して各国との通商貿易を拡大していかなければならない立場にある。かくて自由化の波は好むと好まざるに拘らず、その速度を速めることになり、その結果として琉球物資に対する特恵措置も現状のままではあり得ないことになる。この様な構想を受けて琉球のパイン産業が貿易自由化の荒波を乗り切っていくためには、次の基本方針に基きパイン産業合理化の施策を行うものとするのであるが、その具体化については、パイン先進地の今後の動向とも相俟って慎重に検討の上これに対処するものとする。

- 1) 琉球産パイン罐詰が将来において外国産パイン罐詰と国際競争裡において肩を並べるために必要な本土政府の施策を外国産に対しては1962年以降3カ年間の関税55%、その後は45%とし、琉球産に対しては之を免除することにして、合理化を推進するものとする。

2) これが達成を図るために

(1) 罐詰コストの中で比重の高い生果代については、栽培技術の改善(反収30%増目標)、優良種苗の増殖普及(反収20%増目標)、を重点にして単位当たり収量現在の6屯を8屯まで引上げると共に、反当生産費(特に労働費の低減)の引下げに努め、コストの低減を図るものとする。

(2) 経営面の改善については、現在パイン栽培地は85%が山林原野で占めている。よって土壤保全や労働費の低減面からテラス構築などによる等高線栽培や、簡易索道の設置および山地開発、畑の農道の整備などについて強力なる施策を講ずると共に、協業経営や栽培地の集団化を推進する。

(3) 工場経営面については、現在の工場能力が25工場、81ラインあり、これが適正なる操業能力か

らみて所要成果量および栽培面積について、検討を加え、罐詰生産高の適正把握に努める。

(4) 次に罐詰需要の動向からして目標生産量を100万c/sと定め、これが確保に努める。

(5) 上記(3)、(4)を総合した立場から適正規模工場の配置について検討を加え、原料搬入区域の競合の除去、工場の整備統合、契約栽培の確立など、工場経営の改善を図ると共に、作付一生産一検取一製造一検査一出荷一需要の一貫した流通機構の整備強化に努める。

(6) 尚、製品出荷については季節的需要の動向に応じた供給を行い、需給並びに価格の調整に努めるものとする。

- 3) 本計画策定に当たっての基本資料は従来各市町村報告に基く生産統計を参照し、最近発表になった統計庁のパイン実態調査に基く、結果表を採用することにした。

2. 合理化目標

第1表パイン生産目標(総括)(別紙)

第2表年次別反当収量の目標

第3表年次別栽植面積及生産高(生果量、罐詰製造量)の目標

第4表生果コスト、罐詰コストの基準年次と目標年次の費目内容比較

第5表琉球産、台湾産、(関税45%)の基準年次と目標年次の費目内容及格差比較

3. 主要施策

パイン産業合理化計画の基本方針に基き生産目標に掲げたような構成に再編成するため、次の施策を講ずる。

1) 反当収量の増加

(1) 優良種苗の増殖普及を図るため農業試験場に原苗圃および採苗圃を設置する。

原苗圃ではハワイ産導入種苗および在来種苗から優良系統を選抜したものを母本として育成する。採苗圃では、原苗圃で育成された母本中から更に優良系統を選抜して20倍体に分割してこれが育成を図る。

一般農家への配布は採苗圃で育成された成苗を充てるものとする。一般農家に対しては選苗方法を指導して新植圃は必ず選抜苗を利用せしむるよう努める。

(2) 栽培技術の改善強化を図るためパイン特技普及員を設置する。特技普及員は次の点の技術指導の徹

底普及に努めると共に、技術的調査に当らしむる。選苗、適正栽植密度、施肥の適正化、病害虫防除、土壌流亡防止、ホルモン処理など。

- (3) 土壌の保全のためテラス構築の普及指導、労働費節減のための簡易索道については政府が模範圃場を数カ所に展示し、これが奨励に当っては融資事業を行う。但し、協業経営や栽培地の集団化を行うものを優先する。
- (4) 地質別、土性別に適正な施肥量を設定するため施肥改善指導圃を設置する。
- (5) 山地開発地のパイン畑については、年次計画に基づき農道を整理する。

2) 試験研究機関の整備強化

- (1) 農業試験場にパイン科を設置し、基礎試験の強化と増殖苗圃の適正管理に努める。
- (2) 農業試験場の農芸化学室にパイン加工研究職

員を配置し加工改善、副産物利用などの研究に当らしめる。

3) 生産統計の強化

統計庁で行うパイン生産統計や生産費調査は指定統計に編入し、これが実態把握に努める。

4) 工場経営の改善

罐詰需要は所得水準、売値によって定めるものである。合理化の最終価格をもって大巾な需要の増大は考えられない。既に需要量からの製造制限、労働力確保の困難性など一大岐路にたっている。内部的な工場経営の合理化のみによっては解決できない問題が多い。

1963年度(予算年度)に本土から、合同専門調査団を招へいして多角的診断を依頼し、その調査結果に基づき、これが実現に努める。

第1表 パイン生産目標(総括)

項 目	年 次		備 考
	1961/62年 期 (基準年次)	66/67年 期 (目標年次)	
在 圃 面 積	362,100 アール	100 %	286,800 アール 79
取 穫 面 積	170,500 〃	〃	200,000 〃 117
未 取 穫 面 積	191,600 〃	〃	86,800 〃 45
生 穫 生 産 量	34,000 トン	〃	52,000 トン 152
10アール当り取量	6.0 〃	〃	8.0 〃 133
10アール当り生産費	\$330 セント	〃	\$320 セント 97
生果kg当り生産費	5.5 〃	〃	4.0 〃 72
罐 詰 製 造 量	650,000 ケース	〃	1,000,000 ケース 153
製造原価(ケース当り)	\$7.999 〃	〃	\$6.279 〃 78
売上価格(C & F)	\$8.518 〃	〃	\$6.540 〃 76

第2表 年次別反当収量の目標

年次別	増殖使用 母本本数	増殖本数	増殖圃		配		布		農家並会 社の自然 費	計	植 更新面積 更新率	付同 更新率	更新による 収獲面 ha	収獲面積 に対する 同左比率	基準年を100とした場合の 生産増加指数		10a当り 収獲推移 (基準年 6屯)
			所要面積	圃	母本より採苗	苗	本	本							ha	%	
1 年次 1962/63	本 24,600	本 255	—	本 —	本 16,000	本 16,000	1	—	—	16,000	—	—	—	—	105	105	6.3
2 〃 1963/64	77,000	492,000	—	492,000	215,000	707,000	17	2	—	707,000	—	—	—	110	110	6.6	
3 〃 1964/65	166,000	1,540,000	232,000	1,540,000	195,000	1,967,000	50	7	1	1,967,000	—	—	—	115	115	6.9	
4 〃 1965/66	295,000	3,320,000	533,000	3,320,000	—	3,853,000	165	23	18	3,853,000	0.8	—	—	120	120	7.2	
5 〃 1966/67	300,000	5,900,000	1,353,000	5,900,000	—	7,253,000	449	64	68	7,253,000	3	—	—	130	130	8	
6 〃 1967/68	—	6,000,000	1,562,000	6,000,000	—	7,562,000	—	100	232	—	11	102	130	132	132	8	
7 〃 1968/69	—	—	—	—	—	—	—	〃	664	—	31	106	130	136	136	8.2	
8 〃 1969/70	—	—	—	—	—	—	—	〃	1,314	—	62	112	130	142	142	8.5	
9 〃 1970/71	—	—	—	—	—	—	—	〃	1,849	—	88	117	130	147	147	8.8	
10 〃 1971/72	—	—	—	—	—	—	—	〃	2,100	—	100	120	130	150	150	9	

(注) 1) 5年次までにおいては栽培技術の美質的な改善換化を重点に反収(30%増)8トンを目標とする。

2) 優良種苗の増殖圃は試験場の圃場面積本数等からして2,000tを目標とする。

3) 反収の増は(イ)優良種苗の更新によって20%、(ロ)栽培技術改善によって30%増とする。

4) 増殖方法並びに増殖圃における植付本数、収獲後の母本を輪切(20倍体)増殖とし10a当り30,000個植とする。

5) 増殖に供する母本の内訳、(イ)試験場所有の2~3カ年経過母本24,600本、(ロ)試験場所有現在1年生、59年委託母本77,000本、(ハ)1963年度

導入母本、1962年度設置原圃母本(イ)より得た166,000本、(ニ)1964年度導入母本、1961年委託母本、1961年市町村配布母本、(ロ)よ

り得た母本、295,000本、(ホ)1965年度導入母本、1962年委託母本、(ハ)より得た母本300,000本。

第3表 年次別栽植面積及び生産高の目標

年 次	左 圃 面 積 (アール)				生 産 量 屯	罐 詰 原 料 屯	罐 詰 製 造 ケ ース 量
	新 植 面 積	未 収 穫 面 積	収 穫 面 積	合 計			
1961/62	115,600	76,000	170,500	360,100	34,000	33,000	650,000
1962/63	34,500	115,600	189,800	339,900	40,000	39,000	780,000
1963/64	66,600	34,500	237,700	338,800	52,000	50,000	1,000,000
1964/65	98,900	66,600	226,100	391,600	52,000	50,000	1,000,000
1965/66	27,100	98,900	216,700	342,700	52,000	50,000	1,000,000
1966/67	59,700	37,100	200,000	286,800	52,000	50,000	1,000,000

第4表 原料生産費及び製造原価の基準年次と目標年次の比較表

(イ) 生産費 (10アール当り)

		年次	61/62年期基準年次 \$	1966/67年期目標年次 \$
		費目		
第一 次 生 産 費	成 園 費	植付までの費用 (更新開墾)	32.70	29.05
		種 苗 費	44.73	36.06
		肥 料 費	29.40	31.70
		防 除 薬 剤 そ の 他	1.54	2.00
		小 農 具	2.43	2.43
		畜 力	1.70	1.70
		労 働 及 請 負	31.29	28.53
		建 物 及 設 備	38	38
		大 農 具	1.06	2.12
		借 地 料	4.21	4.21
	小 計		149.44	138.18
	生 産 費			
	肥 料		41.40	48.30
	諸 材 料 費		2.79	3.60
防 除 費		1.53	6.00	
建 物 償 却 費		51	51	
大 農 具 償 却 費		1.08	1.77	
小 農 具		93	93	
畜 力 費		2.07	2.07	
労 働 及 び 賃 料 々 金		92.64	83.10	
小 計		142.95	146.28	
副 産 物 価 格		4.20	4.20	
資 本 利 子		28.86	26.85	
地 代		13.14	13.14	
合 計		330.19	320.25	
		反収6屯kg当り55セント	反収8屯kg当り4セント	

第5表 琉球産パイン罐詰と台湾産パイン罐詰比較（ケース当り）

年次 地域 罐詰種類	61/62年次（基準年次）				66/67年次（目標年次）			
	台湾		琉球		台湾		琉球	
	構成比	FOB	構成比	FOB	構成比	FOB	構成比	FOB
ホールスライス（精選片）	26	\$6,60	5	9,60	26	5,24	5	7,491
スパイラルスライス（整片）	17	6,20	34	9,40	17	5,13	45	7,272
ハーフスライス（両半片）	1	5,80	10	8,84	1	4,70	7	6,690
クオタスライス（四分片）	5	5,65	—	—	5	4,55	—	—
テレビット（扇形）	10	5,20	21	8,10	10	4,40	20	6,036
ピース（碎石）	31	4,77	4	7,69	31	3,85	3	5,527
ウェスト	—	—	16	7,47	—	—	6	5,382
クラッシュ（碎肉）	10	2,65	10	5,05	10	2,27	14	3,418
加重平均価格（FOB価格）	100	5,875	100	8,260	100	4,358	—	6,290
運賃	—	0,300	—	0,250	—	0,300	—	0,250
保険料	—	0,020	—	0,030	—	0,020	—	0,020
ラベル及貼布費	—	—	—	0,300	—	—	—	0,250
計（CIF）	—	5,695	—	8,848	—	4,679	—	6,810
関税	—	CIF×25% \$1,423	—	—	—	45% 2,105	—	—
差益	—	FOB×30 \$1,708	—	—	—	—	—	—
合計	—	8,826	—	8,848	—	6,783	—	6,810

(註) () は琉球産罐詰に相等する台湾産罐詰の種類である。

(2) 琉球産の取引価格はC&FであるのでFOBに換算した。

(3) 構成比中台湾産の場合1959年度の台湾鳳梨公司の実績、琉球産は大型工場（3工場）1961/62年の1期の実績である。

(4) 台湾産はラベル付価格であるが、琉球産は輸入後ラベルを貼付している。